

遺伝子分析科学認定士（初級）およびバイオインフォマティクス技術者について

◎菅沼 涼平¹⁾地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

【遺伝子分析科学認定士（初級）】

遺伝子分析科学認定士（初級）は、公益財団法人 日本臨床検査同学院によって認定されている認定資格である。受験資格には、大学・短期大学や専門学校などで分子生物学関連科目を履修した者あるいは関連学部学科を卒業した者などの規定があるが、おそらく臨床検査技師であればいずれかの条件を満たすことができると考えられる。そのうえで、学術集会や研修会に参加し、必要な単位を満たす必要がある。

出題範囲は、日本臨床検査同学院 Web サイトに出題基準として掲げられているが、遺伝子検査技術に限らず、基礎医学から精度管理まで範囲に含まれるため、現在臨床で実施されている遺伝子・染色体検査の基礎を一通り学ぶことができると考える。

実際の試験は、筆記試験と実技試験から構成されている。また、その前日には指定研修会が開催されており、学生は受講必須、既卒者は任意での受講となっている。任意とはいえ、その研修会の内容は試験範囲の多くをカバーしているものであり、染色体遺伝子分野のエキスパートからとてもわかりやすく解説していたので、任意受講となっている既卒者も、時間の許す限り受講を勧めたい。

この試験は、臨床検査としての染色体遺伝子分野の基礎となる部分を広く対象としている。そのため、遺伝子検査や染色体検査を始めたばかりまたは始めて数年の技師にぜひ目指して頂きたい。これらの分野を目指す学生にも勧められるが、臨床検査技師国家試験の範囲を超えている部分も多いため、国家試験の勉強に余裕がある学生に限られるだろう。また、現在は、病理・微生物あるいは血液分野など、遺伝子検査や染色体検査なしには成り立たない領域も多い。それらの分野を担当する技師にも、それらの領域の知識を深めるために役立つと考える。

【バイオインフォマティクス技術者認定試験】

バイオインフォマティクス技術者認定試験は、特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会が主催する認定試験である。受験資格が定められていないため誰でも受験することができる。

出題される分野は、臨床検査で求められる分子生物学の知識のみならず、オミクス解析のような現状は研究レベルの知識、あるいは情報科学分野の知識まで、非常に広い範囲となっている。

本試験は、近年の社会情勢の下で隆盛してきた、CBT(Computer Based Testing)と呼ばれる形式で開催されている。CBT は、試験によっても異なるが、全国各地にある CBT 試験会場で、一定の期間（試験によっては通年）の中で実施されるため、受験者が都合の良い日・時間そして会場を選択することができる。試験内容は選択式問題だけであるが、問題数が多く、普段使わない分野の知識を求められるため、試験時間内に終わらせるだけでも大変であった。

試験内容は、現在の臨床検査からはやや乖離している。しかし、2019 年からはがん遺伝子パネル検査が保険適用され、エキスパートパネルの構成要員にバイオインフォマティクスの専門家が求められたこと、さらに一部の大学病院などでエクソーム解析あるいは全ゲノム解析をすでに実施されていることから考えると、このようなバイオインフォマティクス技術者が一般の臨床に求められることはそう遠くない未来のことだと推測される。現在、これらの領域に関わっている技師や、それらの業務に興味のある技師あるいは学生が受けてみることを勧めたい。

(連絡先 054-247-6111)